

研 究 所 日 誌

1995年1月

- 4日 事務局仕事始め。 地域福祉、②健康・農業・環境を守る協同
- 6日 黄柳野学園設立準備委員会新春学習会。① のいとなみ、③子育て・教育・文化を協同
学園設立後の組織と運営を協同組合方式で の力で、④協同の力で仕事おこしを考える。
行なうために、②全国の不登校の子どもた 参加者151名（埼玉・浦和市民会館）。
- 7日 第3回基本研究会、報告：相田利雄（法政 19日 シンポジウム「雇用不安と労働の未来」第
大学社会学部）「21世紀の通商産業政策に 6弾東京集会の打ち合せ会議（東京地評）。
- 9日 所報編集会議。 21日 東都生活協同組合、「旬（弁当づくり）」の
ワーカーズ・コープ学習会、講師：広瀬（東
10日 「埼玉協同のつどい」全体会打ち合せ、大 京・調布）。
- 11日 大学生協同組合連合会と懇談会、大学生 東京福祉環境会議世話人会、新春の学習会
の就職問題と労働者協同組合の仕事おこし と交流会、「介護保険問題をどう考えるか」
（中野・大学生協連会館）。 「東京福祉環境会議の今後のあり方と意見
「埼玉協同のつどい」事務局会議（浦和・ 交流」＜新宿・農協会館＞。
- 13日 事務局会議。 26日 「協同の発見」第34号（1995年1月号）発
さいたま教育文化研究所）。 行。
- 14日 「人間らしく暮らせるために一埼玉での協 27日 神奈川県高齢福祉課と懇談、貞末広士氏セ
同の可能性をさぐるつどい」開催。全体会 ンター事業団神奈川本部長に同行、高齢者
パネルディスカッション、問題提起：大田堯 協同組合とヘルパー養成講座について（横
（教育）、太田貞司（社会福祉）、司会：菅 浜市・神奈川県庁）。
- 野正純。分科会①協同の力で築くゆたかな 29日 日本労働者協同組合連合会、全国代表者会
議に出席（～30日、神田・日本教育会館）。
- 30日 勝部欣一副理事長をお見舞（東京・中野総
食品関係労働組合交流会議（研究所）。

当研究所副理事長の勝部欣一氏（日本生活協同組合連合会参与）が、昨年末、胃の種瘍の除去手術のために東京・中野総合病院に入院されました。年明け1月19日に手術を行ない、その後順調に回復され2月9日には退院の予定であります。

手術後、事務局でお見舞にうかがったおりには、点滴もとれお粥の食事が始まった時で、次から次と来訪するお見舞客を相手に大変元気でおられました。阪神大震災には、協同組合陣営で支援と復旧の取り組みを早急に組織しなければならないという思いを切々とベットから語りかける姿を前に、私たちも協同組合運動にかけてこられた年月の重みを新たに感ずるところでした。

住まいから始まって、新しいエネルギーの適用という年来の主張を阪神地域の復興に盛りこみ、これからも一層のご活躍をされるために、心より術後の順調なご回復をお祈りしております。

1995年2月8日

協同総研事務局